

群馬大学工業会中国支部共催の国際会議 3rd ICAEE 2018、重慶交通大学で開催される

今回で第三回となる、標記国際会議 ICAEE(International Conference on Advanced Engineering and Its Education)が、はじめて日本国外の、そして中国支部会員の母国である中国重慶市の重慶交通大学で、10月12日(金)~15日(日)に開催された。第一回は、2016年10月13-15日、桐生市商工会議所 KBIC ホールで、第二回は、2018年3月8-10日、太田キャンパスでそれぞれ開催した。第一回では、本学の Guest Professor として4名が、また100周年記念事業への感謝状として2名が平塚浩士学長から授与された。今回の主催は重慶交通大学、何兆益教授(Prof. Zhaoyi He)が務めたが、1990年代に外国人研究者として本学に約2年間滞在した、邵毅明教授(Prof. Yiming Shao)が実質的な受け入れ責任者となってくださった。さらに、実質的な対応で奔走されたのは、王志洪副教授(Prof. Zhihong Wang)で、下打ち合わせでの来日、論文集、ホテル送迎、懇親会と、ありとあらゆる労苦を一手に担われた。このような人々のおかげで実現できたのであり、改めて感謝申し上げたい。

13日当日、会場には懐かしい面々が来ていた。西南交通大学の周斌先生(志賀研)や四川大学の楊榮松先生(根津研)、重慶大学の邵毅敏先生(上記邵先生の弟で、根津研)、瀋陽航空航天大学の陳雷先生(志賀研)、そして重慶交通大学の多くの先生がたである。はじめに、Prof. Mingjie Zhao 副学長がいきなり中国語で挨拶をし、次いで関理工学府長が英語で挨拶をした。ついで、何人かの中国側の先生がたが挨拶をしたが、すべて中国語で、司会もとくに通訳をするわけではなく、今回の会議を通してこのことはずっと続いた。



オープニングは雑壇に並んだ。左から、李正良(Prof. Zhengliang Li)重慶大学教授、Prof. Mingjie Zhao 副学長、関理工学府長、陳小鴻(Prof. Xiaohong Chen)同済大学教授、竹内利行元本学副学長、うしろに石間先生や根津先生らが並ぶ



挨拶をされる運輸学院の
Prof. Shuqing Li 副院長



挨拶をされる Prof. Mingjie Zhao 副学長

挨拶をされる関理工学府長とオープニングの司会をされる何兆益(Prof. Zhaoyi He)実行委員長



手前中央が周斌先生，その右が楊荣松先生奥のほうには陳雷先生が見える。



さて、講演がはじまった。石間先生の大学紹介と上野先生の国際化に関する話があり、どの講演にも質問なしであった。

中国側の講演のほとんどはいわゆる工学教育に関する取組であり、結局、11件の口頭発表と4件のポスター発表があり、定刻をすぎたあたりで無事会議は終了した。



Li 副院長が Closing というかたちで私と邵先生の出番をつくってくれた。20年もの長い交流が実を結んだと思った。第4回への期待も膨らんだ。



この斜面すべてが火鍋屋さん.



ネクタイも真っ赤だがやめられない火鍋.



日曜日は二手に分かれ，文化探訪グループの楽しそうなランチ．邵重慶大教授（弟，右から3人目）が娘さんとともに引率．左端が初日からガイド役だった学生さん．



邵 毅敏重慶大学教授の娘さんとお父さんの先生だった根津先生．邵先生在学時はお母さんのお腹の中だったのである．いまや，銀行のOL．小学生まで日本で育った．

懇親会は名物の火鍋だという．大型バスに乗って，山を越えたあたりに簡単な屋根だけが山腹を埋め尽くしたようになっていて，スケールがすごかった．肉類，野菜，内臓，海産などを唐辛子スープで加熱し，ゴマ油につけていただく．



日曜日にもかかわらず，交流に関する会議が開催され，ハードな会談となった．左手前から，久米原，志賀，関，石間，上野，尹，右中央黒っぽい服が余女史．

さて，翌日は日曜日にもかかわらず，見学と交流に関する会議をやるという．巨大な圧力容器にディーゼル噴霧を噴射している装置や揚子江の模型などを見学し会議室に入った．待っていたのは余元玲女史らで，私が協定締結を行ったときからの縁だから，20年くらいにもなる．

用件は，1 W-degree の可能性，2 共同 Institution 設立の可能性，3 群大からの授業派遣の可能性，4 年度内に授業派遣が可能か，といったことであった．今夕の便で，余さんは，ポーランドに向けて出発するという．外交の手腕はますます健在のようであった．

いまや重慶交通大学は，4万人の学生を擁する「交通大学」としてめざましい発展を遂げつつある．国際化の戦略とともに発展していることは間違いない．



余女史と関先生の2ショット．恒例のおみやげ交換である．



重慶博物館前．別に演説をしているわけではない．



土曜日の成都での講演のあと、やっとかけつけてくださった鄒徳春中国支部長(北京大教授)ご夫妻(右のお二人) その左は、重慶在住の北京大卒業生でこのお店を案内してくださった。

日曜日の見学と密度の高い会談、そして昼食で充実しすぎたときをすごしたわれわれは、唯一の文化体験となった重慶博物館に行った。実はこの日、重要な会議が突然入って土曜日の会議に参加できなかった、初代支部長の隆武強先生と現支部長の鄒徳春先生の二人に会うことができた。彼らはほんとうに忙しく、大活躍なのはけっこうであるが、どうかからだを大切にしてほしいと願うばかりである。

文 志賀 聖一 (知能機械創製部門)